



## (暫定) 目次案

1. はじめに :1 ページ分
2. ビジョン施策実施状況（表など） :10 ページ程度
  - ・ 基本方針/施策表一覧
  - ・ 重要施策個表
    - ・ 水質管理の強化による安全性の向上
    - ・ 基幹水道施設の耐震対策の推進
    - ・ BCP の策定と運用による危機対応力の強化
    - ・ おいしい水の維持
    - ・ 投資の最適化による健全経営の確保
    - ・ 最適な水道料金制度の確立
    - ・ ICT 等の活用による維持管理の強化
    - ・ 効率的な水道施設の再構築と省エネ化
3. 投資財政計画 :5 ページ程度
  - ・ 給水人口推移
  - ・ 収益的収支の実績及び予測
  - ・ 資本的収支の実績及び予測
  - ・ 収支計画（表）
4. 経営比較分析（表） :1 ページ分
5. まとめ :1 ページ分
6. （参考）アンケート結果/PI 実績 :10 ページ程度

はじめに  
(編集集中)

### ◇ビジョン施策のこれまでの振り返り

平成 30 年に策定したビジョンでは、以下に示す（図●：基本方針と基本施策の一覧表）のように基本方針と基本施策を定めていました。各基本施策について、策定後の振り返りを（表 1：基本施策の実施状況）にて整理を行いました。

また、重点施策については、（図●●●：重点施策個表）にて過去の経過及び今後の予定をまとめています。中間評価は下記のように分類しています。

- A：2022 年度（R4）までに実績があり、予定通り進捗している
- B：2023 年度（R5）以降に計画しており、予定通り実施予定
- C：2022 年度（R4）までの取組から、2023 年度（R5）以降の計画を見直す必要がある

図●

### 現ビジョンの基本方針と基本施策

基本方針 (理想ソフ)	施策目標	重点 施策	№	基本施策
安全	①安全な水の供給	●	1-01	水質管理の強化による安全性の向上
	強靱	②災害対策の強化 (事前対策)	●	2-01
		-	2-02	テロを未然に防ぐセキュリティの強化
③災害対応力の強化 (事後対応)		●	3-01	BCPの策定と運用による危機対応力の強化
持続	④お客様満足度の 維持・向上	●	4-01	おいしい水の維持
		-	4-02	利便性の向上
		-	4-03	利用者とのコミュニケーションの促進 (広報・広報の充実)
	⑤経営効率の 維持・向上	●	5-01	投資の最適化による健全経営の確保
		●	5-02	最適な水道料金制度の確立
		●	5-03	ICT等の活用による維持管理の強化
		●	5-04	効率的な水道施設の再構築と省エネ化
	⑥技術確立・継承による 持続性の向上	-	6-01	地域水道を支える人材基盤の確立
		-	6-02	官民のパートナーシップの深化



表1：基本施策の実施状況

基本方針 (理想ソフ)	施策 目標	重点 施策	No.	基本施策	取組状況	中間 評価		
安全	①安全な水の供給		1-01	水質管理の強化による安全性の向上	予定どおり水源地に高感度色濁度計を設置しています。	A		
強靱	②災害対策の強化 (事前対策)		2-01	基幹水道施設の耐震対策の推進	耐震性が低い屋形山No.1配水池と老朽化が進んでいるNo.2,3配水池を、新しく1つの配水池へ統合しています。 重要施設(病院等)への配水管を優先的に耐震管に更新しています。	A		
			2-02	テロを未然に防ぐセキュリティの強化	予定どおり2023年度(R5)以降に侵入防止柵及びITVカメラを設置することを計画しています。	B		
	③災害対策の強化 (事後対応)		3-01	BCPの策定と運用による危機対応力の強化	毎年、BCP運用訓練を官民共同で実施することで、課題改善し、非常時対応の体制強化ができました。 またICTツールの改良も随時行っています。	A		
持続	④お客様満足度の維持・向上		4-01	おいしい水の維持	予定どおり2023年度(R5)以降にPR活動を実施します。	B		
			4-02	利便性の向上	2021年(R3)5月からコンビニ収納及びスマホ決済を開始しました。	A		
			4-03	利用者とのコミュニケーションの促進	出前講座を実施し、水道事業の取組の認知度向上を図っています。	A		
持続	⑤経営効率の維持・向上		5-01	投資の最適化による健全経営の確保	世代間の負担の平準化を考慮した、アセットマネジメントを2020年度(R2)に策定しました。それに従い水道施設等の更新を実施しています。	A		
				5-02	最適な水道料金制度の確立	水道事業を取り巻く厳しい現状や今後の施設更新計画、財政収支の見通しを踏まえた水道料金改定率及び料金体系などについて、有識者による審議会を計4回開催し、2021年(R3)10月に「上水道料金のあり方について(答申)」としてとりまとめました。	A	
					5-03	ICT等の活用による維持管理の強化	ICTを活用した点検業務の効率化を進めています。また、水道管の情報をインターネット上(一般には非公開)で見ることにより、漏水対応業務の効率化を進めています。 ※なお、お客様の個人情報はインターネット上には保管せず、管理されたパソコンに保管していますので、情報漏洩の心配はありません。	A
						5-04	効率的な水道施設の再構築と省エネ化	将来の人口減少に合わせて施設を統廃合する施設の再構築計画を、2020年度(R2)に策定しました。
持続	⑥技術確立・継承による持続性の向上		6-01	地域水道を支える人材基盤の確立	地域活性化のため、地元企業・人材を優先的に活用しています。 また、水道事業を持続させるために、担う人材を育成する教育資料を整備し、随時見直しを行っています。	A		
			6-02	官民のパートナーシップの深化	2016年(H28)4月より開始した包括委託(第1ステージ)では、民間事業者が技術的な業務を実施し、荒尾市職員がその履行状況を確認・指導(モニタリング)することで、事業安定にむけた人的基盤ができました。 2021年(R3)4月から民間事業者の経営ノウハウの活用によるさらなる水道事業の効率化を目指し(第2ステージ)、第1ステージの民間事業者が継続して業務を受託し、官・民の各々に必要な技術の特定と継承の仕組みを構築していきます。	A		

図●●●：重点施策個表





## 【強靱】No.3-01 BCPの策定と運用による危機対応力の強化



### BCP運用訓練の状況(下)とICTツール(一機)の写真(右)



2022年（R4）に導入した  
応急給水車による給水訓練状況



地区機能、位置情報確認機能を組み合わせた  
リアルタイムの情報共有システム

## 【持続】No.4-01 おいしい水の維持



2012年（H24）4月  
ありあけ浄水場給水開始



おいしい水の要件  
蒸発残留物  
30～200mg/L  
硬度  
10～100mg/L  
※厚生労働省より

安心・安全な水を  
今後も維持してい  
きます

## 【持続】 No.5-01 投資の最適化による健全経営の確保

課題  
認識



実現  
方策



施策の  
具体例



取組状況

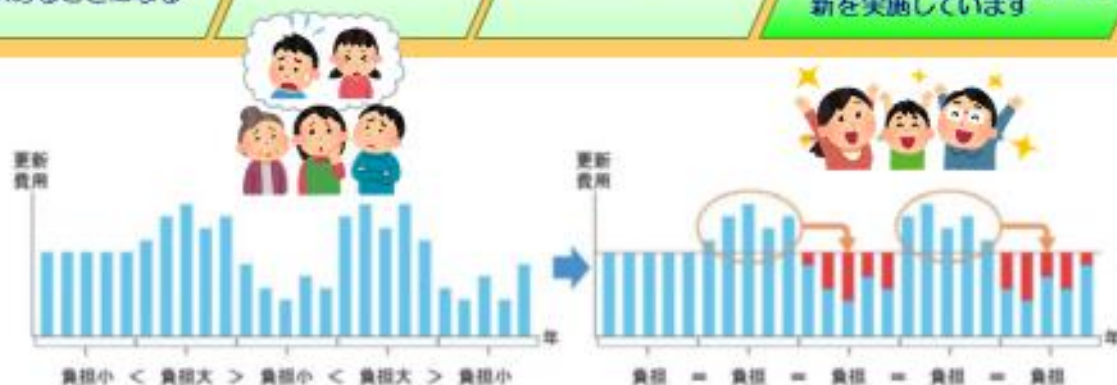


なりゆきで現状の老朽化施設を更新していけば子どもたちの世代に過度な負担を求めることになる

投資を平準化する  
(アセットマネジ  
メントの運用)

世代間の負担を考慮  
した計画(更新・維  
持管理)を立案する

世代間の負担の平準化を考慮した、アセットマネジメントを2020年(R2)に策定しました  
それに従い水道施設等の更新を実施しています



## 【持続】 No.5-02 最適な水道料金制度の確立

課題  
認識



実現  
方策



施策の  
具体例



今後の人口減少に合わせた料金負担にする必要がある

最適な水道料金制度を  
検討する

今後の人口減少と更新費用に合わせた料金制度を検討する

取組状況



水道事業を取り巻く厳しい現状や今後の施設更新計画、財政収支の見通しを踏まえた水道料金改定率及び料金体系などについて、有識者による審議会を計4回開催し、2021年(R3)10月に「上水道料金のあり方について(答申)」としてとりまとめました。  
2023年(R5)6月議会で水道料金改定について審議し、承認可決され、同年10月利用分から料金改定しました。



【持続】 No.5-03 ICT等の活用による業務効率の向上

課題  
認識



実現  
方策



施策の  
具体例



施設の老朽化が進む中で、メンテナンスを効率化しないと労務コストが膨らみ、安定給水が困難になる

ICTを活用してメンテナンスを効率化し、安定給水を強化する

- ・タブレットを活用して点検を効率化する
- ・どこからでも参照できるインターネット上の地図を活用して漏水対応作業を効率化する

取組状況



ICTを活用した点検業務の効率化を進めています。また、水道管の情報をインターネット上（一般には非公開）で見ることにより、漏水対応業務の効率化を進めています  
※なお、お客様の個人情報インターネット上には保管せず、管理されたパソコンに保管していますので、情報漏洩の心配はありません

【持続】 No.5-04 効率的な水道施設の再構築と省エネ化

課題  
認識



実現  
方策



施策の  
具体例



取組状況



人口(需要)が減っていくため、施設の稼働率が下がり、不効率となる

将来の人口減少に合わせて、施設を統廃合することで稼働率を上げる

施設の再構築計画を策定する

将来の人口減少に合わせて施設を統廃合する施設の再構築計画を、2020年(R2)に策定しました

#### ◇施策振り返りのまとめ

平成 30 年に策定したビジョンでの各基本施策について振り返りをここまで行ってきました。平成 30 年から令和 4 年においては、本格的な施設更新の準備段階ということもあり、基本施策の中では、まだ始まっていないものも多くありました。既に実施した施策としては、コンビニ収納の導入や●●、××などがあります。

．．．．

今後、屋形山の耐震工事など大きな事業に着手していく予定となっています。

## ◇投資財政計画

### 1.投資・財政計画（収支計画）の試算

- ・H30年度水道ビジョン兼経営戦略として作成していた収支計画を見直す（経営戦略の改定）
- ・GL等に基づき、改定時から10年（R5～14）を新たな算定期間に設定
- ・

#### （1）収益的収支

- ・<当初予測(H30-39)>
  - ・市将来人口は減少傾向予測(社人研)。水需要の減少に伴う営業収益の減少
  - ・材料燃料コスト高騰。営業費用の増加
  - ・令和3年度で、3条単年赤字となり、以降も悪化予想
- ・<実績部分(H30-33)>
  - ・実績はR3決算まで
  - ・
- ・<R5改定(R5-14)>
  - ・R5年度早々に話を持って行くのでR4決算値は予算値ベースor決算見込ベース
  - ・(12月議会で料金改定しているなら) R5年度より水道料金収入は平均約15%増額改訂
  - ・R4年に入って物価上昇が加速（短期的なインフレ率上昇により●●、長期的なインフレ率1.0%加味）

#### ①営業収入（収益的収入）

##### ア 給水収益

- ・全国的に人口減少傾向。本市においても減少傾向
- ・節水意識の高まり、節水型家電製品の普及による水需要減少
- ・給水戸数・・・
- ・有収水量・・・
- ・コロナ禍での一時的な巣籠需要
- ・

・参考：給水収益の推移（千円）

H30～R3

年度	H30	R元	R2	R3	R4	累計
水道ビジョン計画値	736,867	738,610	734,002	733,496	730,715	2,942,975
決算値	744,475	750,312	763,789	752,456		3,011,032
計画値と決算値の差	7,608	11,702	29,787	18,960		68,057

・参考：有収水量の推移（千㎡）

年度	H30	R元	R2	R3	R4	4年平均
決算値	5,023	5,019	5,087	4,999		5,032

・参考：対前年度比（%）

年度	H30	R元	R2	R3	R4	4年平均
給水収益	100.0%	100.8%	101.8%	98.5%		100.3%
給水戸数%計算用	23,390	23,422	23,410	23,375		
給水戸数	100.9%	100.1%	99.9%	99.9%		100.2%
有収水量	99.4%	99.9%	101.4%	98.3%		99.7%
行政区域内人口%計算用	52,525	51,910	51,321	50,622		
行政区域内人口	98.9%	98.8%	98.9%	98.6%		98.8%

##### イ その他

- ・雑収益のうち主なものについて、次のとおり見込みます。

項目	内容
他会計負担金	消火栓維持管理費負担金 毎年度●●千円を計上
雑収益	督促手数料 毎年度●●千円を計上



②営業外収入（収益的収入）

ア 補助金

・他会計繰入金について、次の通り見込みます。

項目	内容
児童手当に要する経費分	毎年度●千円を計上
他会計補助金	閉山炭鉱水道事業利子補給分 R●年度●千円（以降、毎年●千円ずつ漸減で計上）

イ 長期前受金戻入

・これまでに取得した資産のうち国庫補助金の繰延収益を充当している償却資産の減価償却にあわせ収益化し、今後取得する資産についても同様の考えで見込みます。

ウ その他

・雑収益について、次の通り見込みます。

項目	内容
下水道料金徴収事務負担金	毎年度●●千円を計上
行政財産使用料	毎年度●●千円を計上

③営業費用（収益的支出）

ア 原水及び浄水費、配水及び給水費、総係費

・動力費、修繕費(材料費含む)、その他のうち主なものについて、原水及び浄水費から総係費までの内数として次の通り見込みます。

項目	内容
動力費	毎年度●千円を計上
修繕費(材料費含む)	
委託料	
受水費、ダム負担金	
その他の経費	
人件費	

・参考：人件費の推移（千円）

H30～R3

年度	H30	R元	R2	R3	R4	累計
水道ビジョン計画値	42,385	42,597	42,810	43,024	43,239	170,816
決算値	49,478	50,722	44,414	45,978		190,592
計画値と決算値の差	7,093	8,125	1,604	2,954		19,776

←H29で一時的に総務課1減になりビジョンが厳し目になった反動か？

イ 減価償却費

・これまでに取得した固定資産の減価償却費の予定額に建設改良費をもとに今後取得する固定資産分の減価償却費見込額を見込みます。

④営業外費用（収益的支出）

ア 企業債利子償還金

・これまでに借り入れた企業債の元金償還予定額と今後借り入れる企業債の元金償還見込額の合算額を見込みます。

今後借り入れる企業債については、現行と同様に低利による長期償還を安定して見込むことができる公的資金（財政融資資金、地方公共団体金融機構資金）を活用するものとし、耐用年数等に応じて、償還期間30年および15年（いずれも据置期間なし）の元利均等償還、利率は30年債は年1.5%、15年債は年0.8%とします。

イ 雑支出

・●千円を毎年度同額で計上します。

## (2) 資本的収支

- ・ <当初予測(H30-39)>
  - ・ 令和3年度で、3条単年赤字となり、以降も悪化予想
  - ・ 資本的収支の財源不足額の補填財源が捻出できず令和6年度には資金不足となり、事業運営ができなくなるという厳しい見込としていた。
  - ・ アセットマネジメント実施前であり、工事費は設置後経過年数からの概算
- ・ <実績部分(H30-33)>
  - ・ 実績はR3決算まで
  - ・ コロナ巣ごもり需要により、収益的収支がやや好転しています。
  - ・ アセットマネジメント実施、想定より●●（施設の老朽化進行していた、でいい？）
- ・ <R5改定(R5-14)>
  - ・ R5年度早々に話を持って行くのでR4決算値は予算値ベースor決算見込ベース
  - ・ アセットマネジメント結果に基づく更新計画により工事費を試算

### ①投資財源（資本的収入）

#### ア 企業債

・ 企業債の対象外となる事業費を一定額見込んだうえで、建設改良費から国庫補助金、消火栓の設置に伴い要する経費としての一般会計繰入金を控除した額を企業債充当対象額とします。今後借り入れる企業債については、現行と同様に低利による長期償還を安定して見込むことができる公的資金（財政融資資金、地方公共団体金融機構資金）を活用するものとし、耐用年数等に応じて、償還期間30年および15年（いずれも据置期間なし）の元利均等償還、利率は30年債は年1.5%、15年債は年0.8%とします。災害時等不測の事態に備え、給水収益の半年分の現金を保つように、かつ現金過剰とならないように充当率を調整します。

#### イ 国庫補助金

・ 建設時補助分については、シビア予測で0計上（現状管路でついても年20,000千円ほど。重要管路の対象は限られている）

#### ウ 他会計補助金

- ・ 閉山炭鉱水道事業元金償還分 R●年度●千円・・・
- ・ 平山簡水償還補助 R●年度●千円・・・

#### エ 他会計負担金

- ・ 消火栓設置負担金 R●年度●千円・・・

### ②投資費用（資本的収入）

#### ア 建設改良費

- ・ アセットマネジメント結果に基づく更新計画により工事費を試算 {投資の平準化、3条4条併せた効率化(予防保全加味)、健全度維持目標}
- ・ 物価上昇を考慮し、●●・・・（経営戦略改訂の要件）

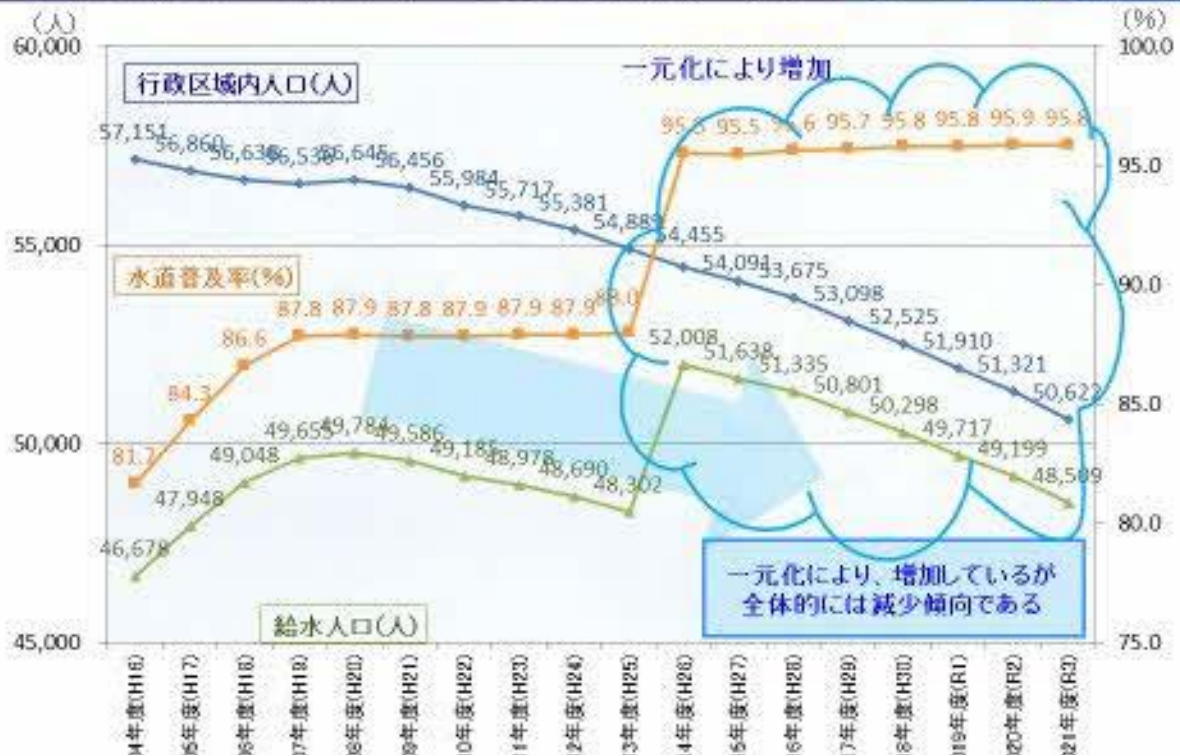
#### イ 人件費

- ・ 包括委託導入の際に、既に人員を大幅に縮小しており、これ以上の減員は事業の安定的な運営に支障をきたす恐れあり。
- ・ 現状の人員数で想定

#### ウ 企業債償還金

・ これまでに借り入れた企業債の元金償還予定額と今後借り入れる企業債の元金償還見込額の合算額を見込みます。  
今後借り入れる企業債については、現行と同様に低利による長期償還を安定して見込むことができる公的資金（財政融資資金、地方公共団体金融機構資金）を活用するものとし、耐用年数等に応じて、償還期間30年および15年（いずれも据置期間なし）の元利均等償還、利率は30年債は年1.5%、15年債は年0.8%とします。

## 行政区域内人口と給水人口および水道普及率の推移



## 財政状況 収益と費用の推移





# 収支計画

{編集集中。H30-39(44)}

↓は参考：H30当初版

表 4-4 今後 10 年の財政予測

※至条件

見通し

項目	年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
施設能力	m <sup>3</sup> /日	22,400	22,400	22,400	22,400	22,400	22,400	22,400	22,400	22,400	22,400
一日平均給水量	m <sup>3</sup> /日	13,780	13,660	13,520	13,420	13,280	13,190	13,040	12,850	12,660	12,520
<b>収益的収支（3条収支）</b>											
収益	千円	1,022,819	1,024,562	1,017,654	1,014,948	1,009,967	1,009,555	1,001,829	992,748	983,529	979,063
給水収益	千円	736,867	738,610	734,002	733,496	730,715	732,603	727,076	721,196	715,177	713,811
その他	千円	285,952	285,952	283,652	281,452	279,252	276,952	274,752	271,552	268,352	265,252
費用	千円	988,146	1,009,447	1,015,877	1,037,865	1,039,608	1,070,689	1,085,417	1,116,608	1,147,633	1,191,043
職員給与費	千円	42,385	42,597	42,810	43,024	43,239	43,455	43,672	43,891	44,110	44,331
支払料	千円	296,430	290,871	292,311	295,781	297,310	298,847	310,301	311,943	313,503	315,070
修繕費・材料費	千円	98,510	98,676	102,437	99,297	101,165	103,090	105,075	107,121	109,231	111,407
減価償却費	千円	382,419	400,615	403,471	408,659	415,700	425,372	439,657	463,308	481,077	518,920
新ビジョン構築費	千円	0	550	550	17,850	11,850	27,950	14,450	13,900	23,100	20,900
その他	千円	178,393	176,138	174,299	173,253	170,344	171,979	172,172	176,445	176,612	180,416
繰越	千円	34,673	15,115	1,777	-22,917	-29,641	-61,134	-83,589	-123,860	-164,104	-211,981
繰越剰余金(当年度分)	千円	182,419	200,615	203,471	208,659	215,700	225,372	239,657	263,308	281,077	318,920
<b>資本的収支（4条収支）</b>											
収益	千円	345,644	365,655	404,204	380,267	564,838	487,465	764,017	492,294	711,502	527,452
企業債（建設改良費のための借入）	千円	179,100	237,890	281,039	261,702	450,788	378,015	660,967	395,644	621,352	443,702
その他	千円	166,544	127,765	123,165	118,565	114,050	109,450	103,050	96,650	90,150	83,750
費用	千円	613,244	594,443	657,384	626,660	905,983	810,822	1,222,338	860,706	1,190,645	949,360
建設収支費	千円	373,795	339,843	401,484	373,860	643,983	540,022	944,238	565,206	887,645	633,860
(うち、ビジョン構築費)	千円	0	0	0	11,000	331,000	95,150	105,000	62,000	15,000	119,500
その他	千円	239,449	254,600	255,900	252,800	262,000	270,800	278,100	295,500	303,000	315,500
繰越	千円	-267,600	-228,788	-253,180	-246,393	-341,145	-323,357	-458,321	-368,412	-479,144	-421,908
内部留保金(累計)	千円	531,021	517,962	470,030	409,379	254,293	95,175	-207,078	-436,042	-798,212	-1,113,181

# 経営比較分析表

## (R5.1 総務係作成見込)

### R3 年度決算案

経営比較分析表（令和3年度決算）

基本員 見込値		事業名		類似団体系分		管理種別	
事業名	事業名	事業名	事業名	類似団体系分	類似団体系分	管理種別	管理種別
公益団	水道事業	水道事業	水道事業	AS	AS	自治体職員	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本増減比率(%)	普及率(%)	普及率(%)	1歩削減 <sup>1)</sup> 全歩削減 <sup>2)</sup> (円)	1歩削減 <sup>1)</sup> 全歩削減 <sup>2)</sup> (円)		
-	59.53	35.83	35.83	2,750	2,750		

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
50,976	37.37	333.53
現在職人口(人)	総水区域面積(km <sup>2</sup> )	総水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
48,509	35.85	1,349.35

分析種



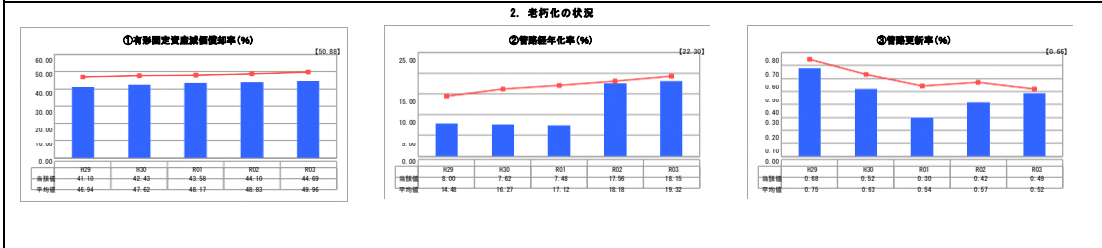
グラフ凡例  
 ■ 当該団体系分 (当該値)  
 — 類似団体系分平均値 (平均値)  
 □ 令和3年度決算平均

1. 経営の健全性・効率性について  
 ①経常収支比率は、類似団体系分と近似であったが、ありありな水場の修繕費の増加により、100%を超えていることから、経営状況は健全な状態であるが、給水収益の減少と施設の修繕費の増加が今後想定されるため、定なる効率性の取り組みが必要である。  
 ②流動比率は、100%以上を維持しているため、支払能力に問題はないが、類似団体系分と比較すると低値となっている。  
 ③企業債残高対給水収益比率は、平成22、23年度にありありな水場の建設費として1,018.557千円を費したとにより、類似団体系分と比べ高値である。また、給水収益の減少により年々増加している。  
 ④利息収率は、給水原価の高値化により100%を下回っている。事業に必要な費用を給水収益で賄えない状況となっているため、料金改定の検討が必要である。

⑤給水原価は、類似団体系分の平均値を下回っている。事業運営の効率化等の取り組みを行っているものの、費用等の増加や年間の給水収益が減少することにより今年度は増加となった。  
 ⑥施設利用率は、従来より、全国平均、類似団体系分と比較すると高値であり、効率的な施設運営ができていない。  
 ⑦有収率は、将来的な見通しを踏まえると達成できない状況である。  
 ⑧固定した設備を維持していくために、今後計画的に更新事業を実施し、経常収支とのバランスを考えた設備投資と購入を行っている。

2. 老朽化の状況について  
 ⑨有形固定資産減価償却率は類似団体系分を下回っているが上昇傾向であり老朽化が深刻である。アセットマネジメントの取組みにより、水道施設の質的更新時期を特定し、計画的に更新を行っている。  
 ⑩管理経年率は類似団体系分平均値より低いが、今後耐用年数に達し更新時期を迎える設備が増加する。類似団体系分と近似となっているが、悪化傾向であり、今後も老朽化の進行を見据えた投資計画が必要である。  
 ⑪施設の経年化を正確に把握したことに伴い、耐震化も併せた計画的、効率的な修繕、更新を行っている予定である。

全体評価  
 施設の利用状況は、類似団体系分と比較すると効率的に活用できており、健全な状況である。  
 しかし、今後人口減少が影響を及ぼす高効率による収益の減少に加え、老朽設備が増加することによる費用の増加が予想され、健全な事業運営のために長期的な対策が必要とされる。  
 (今後の対策)  
 将来にわたって上質なサービスを提供するために、更新事業を考慮した設備更新に基づき、安全で安定した供給サービスを提供できるように努めるとともに、持続的な運営のために料金改定の検討も必要である。



まとめ

(編集中)



## 重要指標の状況

表3-3 水道の水質に関する指標 (PI)

水道ビジョン掲載18ページ

指標	荒尾市	荒尾市	荒尾市	荒尾市	同規模	全国
	H21年 (2009)	H27年 (2015)	R1 (2019)	R3 (2021)	中央値 (2019)	中央値 (2019)
平均残留塩素濃度 (mg/L) <small>⇒P34 N-1</small>	0.4	0.4	0.5	0.5	0.4	0.5
最大カビ臭物質濃度水質基準値 (%) <small>⇒P34 N-2</small>	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6
総トリハロメタン濃度水質基準比率 (%) <small>⇒P34</small>	12.9	2.1	11.3	12.1	13.3	14.5
有機物 (TOC) 濃度水質基準比率 (%) <small>⇒P34 N-4</small>	6.2	3.8	8.6	10.2	15.6	17.7

出展：水道事業ガイドライン (PI) を活用した現状分析ツール (公益財団法人水道技術研究センター)

## 重要指標の状況

表3-4 水道施設の耐震化に関する指標 (PI)

水道ビジョン掲載22ページ

指標	荒尾市	荒尾市	荒尾市	荒尾市	同規模	全国
	H21年 (2009)	H27年 (2015)	R1 (2019)	R3 (2021)	中央値 (2019)	中央値 (2019)
配水池の耐震化率 (%) <small>⇒P34 N-5</small>	86.0	86.0	86.0	82.6	43.1	41.1
管路の耐震化率 (%) <small>*⇒P34 N-6</small>	7.2	14.7	18.5	20.2	9.9	10.8
基幹管路の耐震化率 (%) <small>⇒P34 N-7</small>	9.7	19.0	21.5	23.3	18.0	19.3
基幹管路の耐震適合率 (%) <small>⇒P34 N-8</small>	9.7	45.5	47.3	48.7	32.0	34.7

出展：水道事業ガイドライン (PI) を活用した現状分析ツール (公益財団法人水道技術研究センター)

## 重要指標の状況

表3-6 水道施設の老朽化に関する指標（P1）

水道ビジョン掲載25ページ

指標	荒尾市	荒尾市	荒尾市	荒尾市	同規模	全国
	H21年 (2009)	H27年 (2015)	R1 (2019)	R3 (2021)	中央値 (2019)	中央値 (2019)
法定耐用年数超過設備率（%） <sup>==P24-10-8</sup>	40.0	71.1	36.6	35.3	41.9	44.4
法定耐用年数超過管路率（%） <sup>==P24-10-10</sup>	1.2	8.5	16.3	18.2	15.6	15.2
有効率（%） <sup>==P24-10-11</sup>	91.4	90.4	88.6	88.6	88.8	89.7
施設利用率（%） <sup>==P24-10-12</sup>	77.1	69.1	69.1	69.1	61.5	59.7
最大稼働率（%） <sup>==P24-10-13</sup>	85.5	102.4 (注)	75.7	71.6	72.3	70.7

出展：水道事業ガイドライン（P1）を活用した現状分析ツール（公益財団法人水道技術研究センター）

## 重要指標の状況

表3-7 水道事業の収支に関する指標（P1）

水道ビジョン掲載32ページ

指標	荒尾市	荒尾市	荒尾市	荒尾市	同規模	全国
	H21年 (2009)	H27年 (2015)	R1 (2019)	R3 (2021)	中央値 (2019)	中央値 (2019)
総収支比率（%） <sup>==P24-10-14</sup>	105.1	115.7	108.7	102.6	111.3	110.3
1か月10m <sup>3</sup> 当たり家庭用料金（円） <sup>==P24-10-15</sup>	1,102	1,134(注)	1,155	1,155	1480	1512

出展：水道事業ガイドライン（P1）を活用した現状分析ツール（公益財団法人水道技術研究センター）

（注）消費税率の引き上げによる増額であり、水道料金体系はH3年（1991）から変わっていません。

## 指標説明

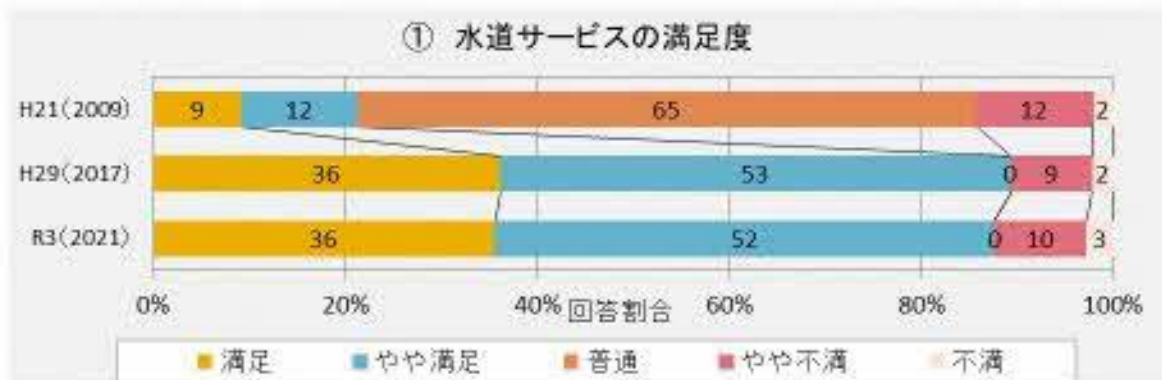
No.	指標名	説明
1	平均残留塩素濃度 (mg/L)	カルキ臭発生に与える影響を表す値 (0.1mg/L以上でなるべく低い方がよい)
2	最大カビ臭物質濃度水質基準値 (%)	カビ臭の原因となる物質がどの程度含まれているかを示す値 (低い方がよい)
3	総トリハロメタン濃度水質基準比率 (%)	有害物質のトリハロメタンの濃度を示す値 (低い方がよい)
4	有機物 (TOC) 濃度水質基準比率 (%)	有機物 (TOC) の割合を示す値 (一般的には低いほうがよい)
5	配水施設の耐腐化率 (%)	水道水を貯める配水施設の耐腐化している割合 (高い方がよい)
6	管路の耐腐化率 (%)	市内の全管路のうち耐腐性のある管路の割合 (高い方がよい)
7	基幹管路の耐腐化率 (%)	市内の基幹管路の延長に対する耐腐管の割合 (高い方がよい)
8	基幹管路の耐腐適合率 (%)	市内の基幹管路の延長に対する耐腐適合性のある管路の割合 (高い方がよい)
9	法定耐用年数超過設備率 (%)	電気・機械設備で法定耐用年数を超えた割合 (低い方がよい)
10	法定耐用年数超過管路率 (%)	市内の管路の中で法定耐用年数を超えた割合 (低い方がよい)
11	有効率 (%)	配水施設から配った水量のうち、有効に使用された水の割合 (高い方がよい)
12	施設利用率 (%)	水道施設の能力をどの程度平均的に利用しているかを示す値 (抱すぎるとは施設が余剰ということになるが、逆に100%に近ければ予備能力がないことを意味する)
13	最大稼働率 (%)	最も給水した日の給水量が施設能力のどの程度に当たるかを示す値 (施設利用率と見方は同様)
14	総収支比率 (%)	水道事業の収入の支出に対する割合 (100%以下は赤字を意味する)
15	1か月10m <sup>3</sup> 当たり家庭用料金 (円)	標準的な家庭における水使用量 (10m <sup>3</sup> ) に対する料金

## 「利用者アンケート」結果概要

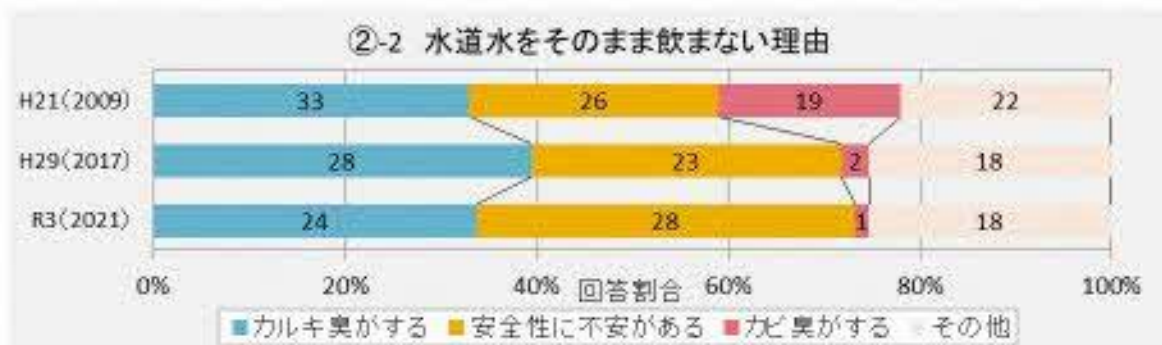
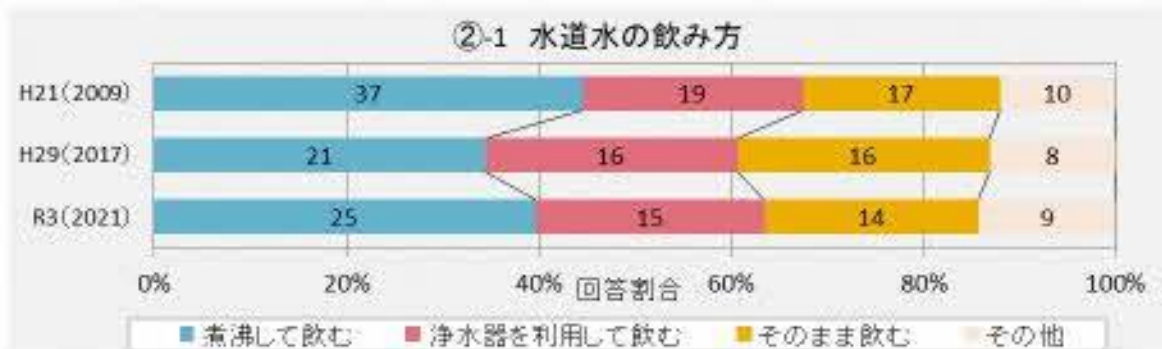
アンケート内容	認識課題（2017年）	2021年状況
水道水の飲み方	市販のペットボトルよりも安全な水質検査を行っているにもかかわらず、安全に不安がある利用者が多いため、より多くの利用者に飲料水として利用してもらうためにPRが必要である。	「安全性に不安がある」が23%から28%に微増している。 2009年対比で2017年、2021年は「カビ臭」は減少した。
節水意識	利用者の9割以上が節水意識を持っているため、一人当たりの給水量は今後も上昇しないことが見込まれる。	節水意識が高い状況を保っている。
水道料金	今後の料金設定の検討においては、年金受給世帯が多いことを考慮して検討を行っていく必要がある。	やや安いという割合が少し増加した。
今後の重点的な取組	おいしい水のアピールについては周知不足であるものの、重要施策としてのニーズは下がっているため、今後は安定した水道を供給するための施設整備を重要施策として位置付けていく必要がある。	2009年対比で安全な水道水の安定供給、おいしい水の共有が減少し、地震対策、老朽対策が増加した。
住民コミュニケーション	緊急時の情報伝達手段として、インターネットの活用方法を広げていく検討が必要である。	20代のみインターネットが最も高い。他の世代でもインターネットの割合が徐々に増加してきた。 20～40代はLINEの割合が増えてきた。



## 「利用者アンケート」結果



## 「利用者アンケート」結果



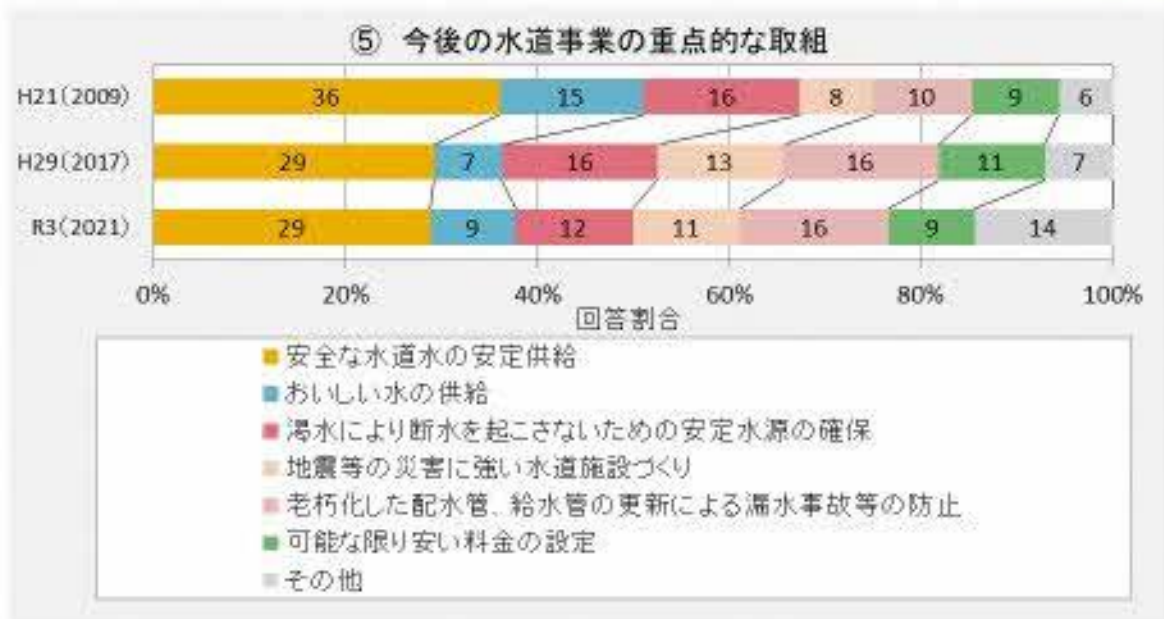
## 「利用者アンケート」結果



## 「利用者アンケート」結果



## 「利用者アンケート」結果



## 「利用者アンケート」結果

